

公益社団法人 観音崎自然博物館 海洋環境調査「キッズ海チーム」

実施期間：2019年4月13日（土）～2020年3月1日（日）



【事業の内容・目的】

- 横須賀市と周辺地域の小学生 19 人を公募して「キッズ海チーム」を結成し、観音崎で磯の生物観察と海岸清掃を行った。
- 月 1 回程度、全 7 回の活動日を設けた。最終回は活動報告として参加者の家族や一般の方を招き、発表会を行った。
- フィールドでの活動を通して参加者が、海の生物と環境に関心を持ち、海で活動する知識や技術を習得することを目標とした。
- 自然豊かな観音崎のフィールドで活動し生物を調べることで、豊かな海とはどのようなものかを知り、また海岸清掃や漂着物調査を通して、身近な海洋ゴミについて知り、海に親しみ守る気持ちを持っていただくことを目標とした。
- 活動報告を展示し、博物館来館者に観音崎の海辺の環境を知っていただいた。

活動の様子

1. 「キッズ海チーム」による磯の生物観察と海岸清掃

【開催日時】 説明会 2019年4月13日(土) 10:00~11:00

第1回 5月18日(土)、第2回 7月13日(土)

第3回 8月13日(火)、第4回 9月14日(土)

第5回 10月26日(土)、第6回 11月23日(土)

(第1回~第6回まで、9:30~15:00)

第7回 12月14日(土) 10:00~11:30

【開催場所】 観音崎自然博物館、観音崎公園ボランティアステーション研修室、博物館付近の海岸

【参加者数】 171人(説明会35人、第1回18人、第2回19人、第3回15人、第4回17人、第5回15人、第6回12人、第7回58人)

【活動内容・目的】

- 小学生19名を対象に磯の生物観察と海岸清掃を継続して行うことにより、海の生物や環境に親しみ、野外活動の技術やマナーを身に付けてもらい、海の環境保全を担う次世代の人材育成を目的とした。
- 横須賀市と周辺地域の小学生を対象に説明会を行い、参加者を募った。5回のフィールドワークで磯の生物観察、スノーケリング、海岸清掃、漂着物調査を行い、それらをまとめ、最終回には発表会を行った。



研修室の様子



説明会の様子



活動するフィールドの様子



博物館の庭でスタッフと集合写真

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



第1回5月18日
磯で生物観察



第1回5月18日
海藻標本作り

膝の深さまでのところで磯の生物を観察・採集し、岩場の環境や生き物に触れることに慣れることを目的とした。海岸清掃も行い、漂着物の中にごみはかなりあることに気づいてもらった。海藻標本作りを通して、生物としての海藻にも関心をもってもらった。



第2回7月13日
水中マスクを着ける様子



第2回7月13日
水に浮かぶ練習

水着に着替え、水中マスクとフローティングベストをつけて、水中観察ができるように浮かぶ練習とシュノーケルクリアの練習をした。道具の扱いはすぐには上手にできず、何回も付けたり外したりして練習した。浮かんで水中観察ができると魚を見つけられることがわかり、がんばっていた。浜は比較的きれいだったがプラスチックごみを拾った。



第3回8月13日
採集した生き物を観察



第3回8月13日
顕微鏡で砂や小さな生き物を観察

水温が高くなってきたこともあり、水中観察は順調にできるようになった。各班で目標（魚をたくさん見る、カニを採るなど）を決めて海で泳いだ。採集した生物はその場で記録して海へ逃がしているが、調べたいものやスケッチしたいものは研修室へ持ち帰った。浜はゴミが少なくきれいだったが、砂の中に混ざっているか調べてみた。活動に慣れて余裕ができており、海の生物への関心がいっそう高まり、図鑑での種名調べやスケッチを熱心に行っていた。



第4回9月4日
磯で水中観察



第4回9月4日
観察した生き物のリスト作成

3回目の水中観察であった。水中マスクの扱いに慣れて上手に浮くことができるようになり、生き物も多く採集することができた。これまで観察した生き物のリストを作り、79種を確認した。台風の後だったので、海岸のゴミは多く、また遠くから流されてきたと推察されるアシの茎やプラスチックの日用品が多かった。



第5回10月26日
漂着物をグループ別に分ける



第5回10月26日
漂着物ストーリーを発表

「地球の楽校」の長谷川先生のご指導の下、漂着物調べを行った。集めたゴミを陸と海のものに分け、さらに動物・植物・鉱物・人工物にわけて、どうしてここに来たのか、を考えた。班ごとに気になるものを持ち帰り、さらに推理し、発表した。浜辺の漂着物には様々なものが、様々な理由で集まることがわかった。



第6回 11月23日
採集した生き物を観察



第6回 11月23日
顕微鏡で砂や小さな生き物を観察

次回の発表会に向けて、好きになった生き物、がんばったこと、楽しかったこと、これから調べてみたいこと、の中からテーマを選んで画用紙に描き、班ごとの発表内容も相談した。またいつもと違う、漂着物が多く集まる海岸へ行き、台風後の材木がたくさん打ちあがった様子を観察した。そこではマイクロプラスチックの採集もできたので、持ち帰って観察した。



第7回 12月14日
採集した生き物を観察



第7回 12月14日
採集した生き物を観察

参加者の家族や一般の方に向けて、これまでの活動の発表会を行った。それぞれの活動日の報告は班ごとに担当し、その後個人のテーマについて発表した。海は少し怖かったけれど好きになった、という変化や、好きになった生物を調べたことなどが報告され、海の学びにつながっていると感じられた。観覧する家族の方も活動の成果が見られ、うれしそうだった。

【参加者の声】

- 海にごみがあると、海がかわいそうに思えました。大切にしたいです。
- スノーケリングができるようになり、海でたくさん泳げたことがよかった。
- 顕微鏡で観察してワレカラという生き物を初めて知った。もっと知りたい。
- プラゴミの件が心配です。
- 将来を担う子供たちが「海」や「生き物」の大切さを学ぶ、よい機会になった。

2. 「キッズ海チーム」活動報告展示

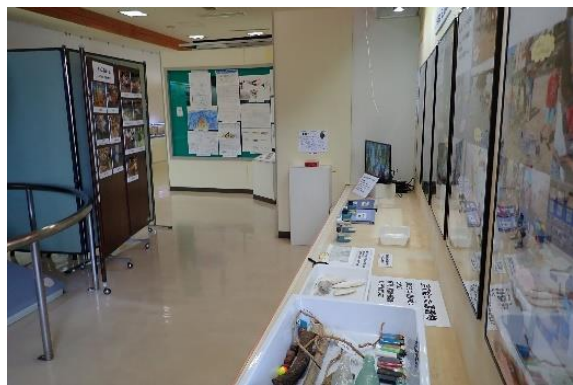
【開催日時】2019年12月21日(土)～2020年3月1日(日)

【開催場所】観音崎自然博物館 展示室

【参加者数】3,022人

【活動内容・目的】

- 博物館展示室に「キッズ海チーム」全5回のフィールドワークの記録と発表会の成果を展示した。
- 活動内容、観察した生物、海洋ゴミの記録、参加者の発表内容などを、写真、パネル、実物、水槽での飼育展示、テレビモニターなどで説明した。
- 来館者にも観音崎の海の環境を知り、海洋教育に関心を持っていただくことを目的とした。



展示スペース全景



タイトル



フィールドワークの記録



浜で拾った漂着物調査の展示



観察した生物の写真



参加者の発表会用の作品



採集した生物の水槽展示



海中の様子をテレビモニターで展示



小さな生物やゴミを顕微鏡で
観察するコーナー



参加者の日誌や写真のアルバム

- ・「キッズ海チーム」のフィールドワークの記録、発表会の作品、活動写真のアルバムなどにより、参加した子供たちの楽しそうな様子や、日常ではできない体験の様子から、このような海洋教育そのものに関心を持つ来館者が多かった。
- ・海中を映した動画、生物の写真、生物の水槽展示などにより。観音崎の豊かな海を知ってもらうことができた。東京湾にもさまざまな環境があり、多様な生物が住んでいることを理解し、関心を持っていただけた。
- ・フィールドワークの記録、漂着物の展示、マイクロプラスチックの観察などにより、一見きれいな海にも人工物が多く漂着することを知らせ、海洋ゴミの問題に関心を持ってもらうことができた。

【参加者の声】

- 海にはいろいろな生物がいるとわかった。
- 海を大切にしようと思った。
- 漂着物調査の展示がよかった。流れてきたものがどこから来たか、どんな人が使っていたのか、興味がふくらむ。

【事業全体のまとめ】

本事業は当館では初めての、参加者が同じフィールドで複数回にわたり実施するスタイルの体験学習であった。同じ場所であっても海況は毎回異なっていたが、フローティングベストやスタッフ用ゼッケンベストなどを用い、安全に活動することができた。バケツや網などの採集グッズも使いやすく、参加者に喜ばれた。

フィールドで観察し採集した生物や漂着ゴミについて、参加者自身が顕微鏡や図鑑を使って細かく調べ、さらに関心を深めることができた。

一般社団法人地球の楽校より講師を招き、漂着物調査のワークショップを行ったが、参加者にとって初めての海の学びとなり、たいへん興味を示していた。

活動報告展示では、画質の良い写真パネル、テレビモニターで流す海中の様子、海の生物の水槽展示をすることにより、来館者の関心を引き付けることができた。さらに本事業への参加を希望されるばあいが多数あり、次年度以降の実施へとつながった。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 一般社団法人地球の楽校	漂着物調査の講師

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. タウンニュース横須賀版	海を学ぼう調べよう小学生向け年間講座 2019年3月15日

以上